

KOBE MONOGATARI

神戸の物語

緒方しげをNO.7

11M
8
6
4
2
10M
9
8

E.R

A.P

ブリリアントな
夏の装いのために——



ネックレス ¥2,500,000

今月のご紹介商品は、スモークパールズの
カメオのついたネックレスです。カメオだけ
を取り外すとブローチとしてもお使いいた
だけます。その日の服装に合わせて、この夏の
ファッションをお楽しみください。



ブローチ ¥1,200,000

INCORPORATED & EMPLOYER of Licensed Pearl
 KINOSHITA
PEARL
CO., LTD.

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078)221-3170

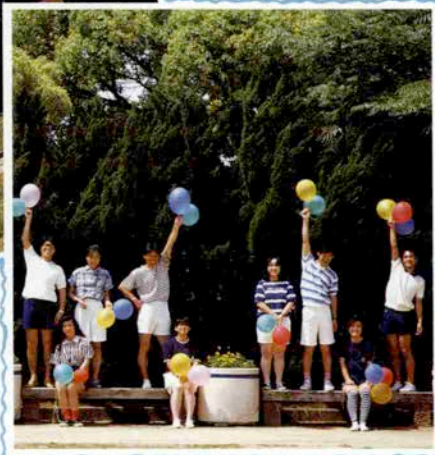
10:00AM~6:00PM (木曜日も営業をしています)



この夏も
いい夏しまあ〜す。

MACスタッフ一同

マリンできめた
MACの
アイドルたち



MAC
SINCE 1895 KOBE

本部/中央区三宮町1丁目6-22(ニューセンター7F) (078) 392-1651

三宮本店/三宮センター街 (078) 391-0895
 プレザージュ/トアロード (078) 391-0896
 ドルチェマッ/三宮センター街 (078) 332-0141

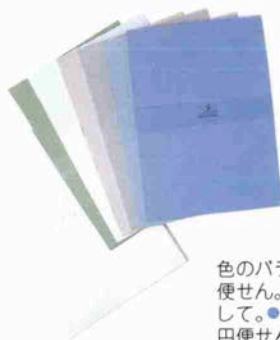
京都店/藤井大丸2F (075) 211-0857
 姫路店/FESTA 2,3F (0792) 89-4738
 宝塚店/宝塚南口サンピオラ3F (0797) 71-4830

キラリ、新発見

まあ、うれしい。感度がいいわ、と包みをあけると表情キラキラ。幸せなあ顔、この顔に、出会えるような、好意いっぱい品々をフロアに輝かせています。心と心をしっかりと結ぶ贈り物を、大切な人のもとへ。夏の素敵なお中元。夏の贈り物は丸。



休日気分のシャツで、夏休みをエンジョイしてね。●マンハッタン/カンシユアルシャツ3,900円
■1階サ・シヤ
ツシヨップ。



色のバラエティが楽しい封筒と便せん。お好みの色をセットにして。●エンケラー/封筒各 950円
便せん各 750円 ■6階ステーションリーコーナー



ピッカピカに磨いて男(女)をあげてくださいな。●かる石 250円
コルクブラシ 1,200円
タワシ 900円 ■4階バス用品売場

蔵元からご家庭へ直送。
●イキのいいウマ酒です。
●小鼓純米生5本入5,000円
■地1階酒売場



おしゃれなティーパーティをどうぞ。(時には、私も招待してね) ●テーブルギャラリー/シヤルマンゴブレット 2,700円
コーヒーカップ&ソーサー 2,600円
デザート皿 1,800円など ■5階テーブルギャラリーコーナー



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121

ワ
ル
イ
の
は、
大
胆
が
似
合
う
ボ
デ
イ
で
す。



サマーバカンスは、いつもとちがう自分になれるとき。
モーニングシャワーできのうを流し、リッチな気分で、シャルレを選ぶ。今日の私は、モダンなレース使いに包まれます。
ちょっと大胆なデザインは、夏を愉しむおんなの気持ち。
さあ、大人のボディに洗練されたヨーロッパアンエレガンス咲かせましょう。
おんなは、美意識過剰でいいのですから。

●
シャルレ商品はホームパーティー形式の「試着会」でたのしく、納得して、お選びいただけます。

♥ シャルレ

本社/神戸市中央区港島中町7丁目7番1
☎078(302)7171代

上/FA-091ブラジャー(ホワイト)¥3,200 下/IB-071ショーツ(ホワイト)¥1,500

これは神戸を愛する人々の雑誌です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の心の手帖です

7月号目次 ● 1986・No.303

表紙/小磯良平

セカンドカバ1/中西勝/世界の物売り(19)/モロッコ

9 神戸3子86/村屋重紀・島田誠

12 ある集い/①兵庫倶楽部写真同好会(2)ドルフィンズスポーツクラブ

15 コウベスナップ/神戸まつり・神戸外大記念式典

16 語彙集(四季)語/多田智満子・絵/石坂春生

18 神戸の物語/緒方しげを

29 わたしの意見/碑 徳仁

31 随想/山中馨・井上豊子・権柄佑

34 エッセイ/服部 正 カット/杉浦祐二

36 こうべ味な旅/藤本義一 カット/石阪春生

K O B E 音楽夜話(14)/森下悦伸

地域文化論9/米花穂

42 (特集)国際交流神戸事情/海野光子/大倉照男/住野和子/佐藤直邦/田嶋喜巳

44 経済水ケツジャーナル

56 キャンペーン/国際文化都市神戸を考える(10)

個別大学の枠を超えた国際交流の進展を

神戸幸次郎/後藤幸男/武田 建/山口光朝/森 恒夫

神戸まつりここがよかった アンケート

タカラヅカ対談/但馬久美&大浦みつぎ

話題のひろば①能福寺登山式(2)有沢先生祝賀会

フアッション・スポット

ファッション・ウオッチング/南竜子

神戸のお嬢さん/エリザベスシンブリック アナバディーノ

もうさんのHYOGO WALK/相生ペーロン祭

コーヒーブレイク

動物園飼育日記(24)/亀井一成

小山乃里子の華麗なる男のインタビュー/松本幸三

神戸の集いから

スポーツエッセイ/甲斐泰雄(バードマン)全

有馬殿時期(7月)

出会いの旅/外園一人

再びプロフェッサーPの研究室/岡田 淳

K O B E M O D E R N C U R T U R E

神戸百貨会だより

K F S ニュース

びつといん

ボケットジャーナル

小関三平のやぶにらみ見聞録(9)市内定期観光バスはゆく

連載小説「オレンジ色の闇舟木かを子」カット/岩島雅彦

魔女学入門/文・ソノキリテイス 絵/マダム最世子

海・船・港/神戸港開港120年記念連載(その1)海市悠太郎

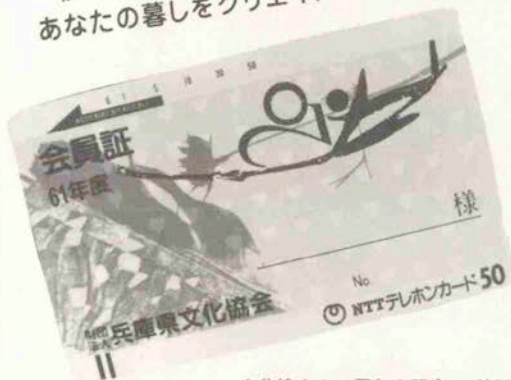
カメラ/米田定藏・池田年夫・坂上正治・松原卓也

カット/杉山知子



昭和61年度会友募集

一枚のカードが
あなたの暮しをクリエイト



文化協会の20周年を記念し、特製の会員証(テレホンカード)を贈呈。このチャンスをお見逃しなく。

★会友の特典

- 文化情報誌の送付
『ひょうご文化』が協会日より、が年6回それぞれ無料で送付されます。
- 優れた舞台芸術が割引料金で
(協会の指定したもの)
ピッコロシアター・兵庫県民小劇場・神戸文化ホール
姫路市文化センター・尼崎アルカイクホール ほか
- 県立近代美術館、県立歴史博物館での特典館主催の特別展、常設展が無料

などほか多数特典有

★会費 年額3,000円 (法人会費 10,000円)
郵便振替(神戸2-926)でも申し込みます。

お問合わせ、お申し込み先

兵庫県文化協会

〒650 神戸市中央区下山手通4-16-3 ☎078-321-2131

十二代目市川團十郎襲名披露

松竹大勢舞伎 特別公演



勧進帳



鳴神

◆演目◆

双蝶々曲輪日記

角力場

藤娘

口上

◆昼の部◆

鳴神

大谷豊連中

◆夜の部◆

勧進帳

長唄囃子連中

◆出演◆

歌舞伎
十八番の内
十八番の内
海老蔵改め
長唄囃子連中
市川團十郎
尾上梅十郎
中村奎右衛門
村松幸郎

9月23日(火・祝) 24日(水)

昼の部 1時
夜の部 6時

■入場料 特等席 5,000円 1等席 4,000円 2等席 3,000円
3等席 2,000円 学生券 1,500円(当日指定)

■前売所 神戸文化ホール、さんちか、国際会館、大丸垂水、
須磨パティオ、(大阪) 阪急・阪神の各プレイガイド

神戸文化ホール
TEL (078) 351-3535

新宿・高野
BONFUKAYA
リザ・サロン
ゲルラン
ココ山岡
VICKY
LEE SOPHY
ELLE
アベニュー22
ブライダルサロン・ループル
ダイアナ
サイズショップダイアナ
OFU
CLAUDE LEMA
ZAZIE
LE.MON TEA
三愛

SUMMER RESORT FAIR



FASHION
PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間 ———— A.M.11:00~P.M.8:00
PHONE ———— 078(332)1698



●BARRLEYパーレイ(リビングセット)樟材・パープルブラック色(材)フレンチグレイ
 張布は個性的なローズカラーのニットスエード地・テーブルTOPは陶板を象嵌しています。
 あかり/遠藤照明協賛

「今ノ感性がほとぼしるインテリア」
森繁のリビング家具フェア
 〈ヨーロッパ版画展も同時開催〉

喜びの家具



予告 7月24日(木)～29日(火) 於:さんちかホールにて お問い合わせは **株式会社 江戸屋家具店**

本店 / 神戸市兵庫区塚本通2-1-1 ☎078(575)3120代

新築・増改築・御結婚などのご予定の方は、御参考までにぜひお立ち寄りごらん下さいませ。

☆私の意見

孫文生誕120年を 機にさらなる

日中友好の輪を

陳 徳仁

△社団法人神戸中華総商會会長▽



現在、神戸在住の華僑は約八千人といわれていますが、その内、実社会で活躍されているのは約二五〇〇人ほどだと思います。世界の華僑総人口が三千万人ということを考えて、神戸の華僑は、数の上ではほんのわずかですが、日中交流には、十分活躍していると思います。

たとえば神戸には、私が館長を勤めている華僑歴史博物館がありますが、これまでは、日本における華僑史を中心に紹介して来ました。ところがこのほど、福建省廈門にある華僑博物院と提携したのを機に、お互いに資料を交換し合い、神戸の皆さんにも、中国の歴史・文物を知っていただき、中国側にも神戸の事情を分ってもらい、相互理解をさらに深めようと考えています。

また広東にある暨南大学は今年、創立八十周年を迎えますが、訪中の折り向こうの華僑史の研究者にお会いして、われわれ神戸の華僑について、もっと理解を深めてもらおうと思っています。

逆に神戸の華僑で本国に貢献した人も少なくありません。なかでも舞子の八角堂（現・神戸孫中山記念館）を建てた呉錦堂は有名です。彼は祖国に学校を建てたり、治水工事を施したり、その貢献度は計り知れません。

このように、われわれにとって中国との関係は、単なる日中交流ということよりも、むしろ祖国に対する愛情でつながっているといえます。

神戸と中国との歴史を見たとき、忘れることが出来ないのが孫文です。今年は孫文生誕一二〇周年に当たり、中国でもいろいろな行事が計画されていますが、その一つとして、孫文の生涯をとりあげた大スケタル映画が、広東省珠江電映公司の手によって製作されています。私はこの秋に予定されている神戸での孫文生誕一二〇周年の記念行事に間に合えばぜひ上映をしたいと申し入れています。この映画によって、神戸市民の皆さんに、日中交流史の一端に触れていただければ、相互の友情はますます深まるだろうと思っています。（談）

実験交流サロン

シアター・ポシェット

7月の公演

5日(土) } ビーター・ブライトリーの
6日(日) } モダンダンス

7日(月) 18:30 富本憲子
クラシックジョイントコンサート
一般 2000円 学生 1500円

27日(金) 13:00 子供のサロンコンサート



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間/土、日曜日(通常)A.M.10:00-P.M.8:00
- 費用/ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備/グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テーブルコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ
まごう前センター街東南角、さんちか入口
〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F

佐本小児歯科 佐本 進 ☎ 331-6302~3

THE MAMAE BRICK HOUSE
SINCE 1983
HONDORI SANNOMIYA KOBE
4F: THE MAMAE ATTIC
3F: THE MAMAE PRIVATE LIBRARY
The Mamee Staircase Gallery



自然と人と知と



集いの場

自習室



ザ・ママエ・アテ集いの場、欧風白オ・キッチン・ピ書斎風集いの場。に駆け登り扉を開る。谷川のせせ原へ湧き出た筏。此の地上の心やさしい。語り合う自由00、原則として、代。要予約。はくから●●●移りいかり合い、今を活躍達へ、The ☎078-331-5669、イペイト・ライブ館という自習室、て本をひもとき、書類をひろげるとが入る。が、テス刻々と近づく。公たいが、交通至便館時間や自だ。そういマエ・ブラリ壁と天トがもとだ。種かなるのもいい

自由空間、木造り・オーディアノ付屋根裏部屋煉瓦の階段を一息けるとそこに“在らさ、群青色の海暖炉の緋色の炎。しき村人へ贈りた空間。9:00~22:朝、昼、夜、3交くも自然、この街の中、語り合い、き、明日を想う仲Mamee Atticザ・ママエ・ブラリ、私設図書館家や仕事場で、さノートをとり出し決って何か横やリトや提出期限は、立の図書館に行きとはいい難い。閉習室の有無も考慮う時には、ザ・マブライペイト・ライ一へ行こう。レンガの然素材の椅子やカーベッ心地よい。緑茶は、常に手何より、隣りの人の熱中ぶりがカブげとなる。待ち合せに利用するのでもいい。だろ。10:00~22:00無休館。手頃な時間料金。ワープロ、英文、ペンタッチ、和文タイプ、拡大・縮小コピー等画利用可。コーヒー・ティー・らく菓コーナー有。予約可。ときに空間があなたを決定する●●●静けさの中、読書、勉強、思索し、今を生き、明日を想う人達へ。 ☎078-331-5669

The Mamee Private Library.

ザ・ママエ・ブリック・ハウス

〒650 神戸市中央区三宮町2-10-10 ☎078-331-5669

随想



<あやとり/山中 馨>

思い出の海と 風景の中の海

山中 馨

△画家▽



鳴門の渦潮は日本一勇壮で変化に富んだ潮流は世界一であろう。桜鯛の一本釣でも有名でその味は日本一旨い。突き抜けるような青い西浦の海も好きだ。沼島や岩屋、対岸にある須磨や舞子の海も好きだし、毎日登山で早朝保久良から眺める大阪湾の海も捨てたものでない。霜柱の立つ冬日など実に美しい。八三年の

夏、スケッチブックをほっばらかして泳いだエーゲ海も、そしてナポリの海も好きだ。しかし、ガキの頃から体で覚えた塩辛い由良や洲本の海はもっと好きである。それは骨までしみついている潮の匂のある「思い出の海」と「風景の中の海」との差であろうか。私の絵のどこかによく登場する海はきっと「しよっぱい思い出の海」なのだろう。ポーウ、ポーウと鈍い霧笛の音が薄明りのもやの中を漂いながらしきりに鳴いている。船室からでてきた少年が不安そうに神戸通いの連絡船のデッキにつかまりポツンと立っている。今にも泣きだし

たい気持をこらえながら見えないものを必死になって見ようと、しきりに片方の手のひらで赤くなった眼をこすっている。突然鼻の先に漁舟が現れ消えていった。「オー」声にもならない声が咽仏あたりにつっかかり大きな息をつく。四辺は前にも増して真綿で覆れたような異様な灰色の世界に包まれ、恐怖と不安で船底を打つ微かな波の音を追いなから手をのばせばすぐそこにあるはずの海を見たいと願った。空と海の境を失って少年だけがふあーと宙に浮んでいる。船に乗っていることの実感さえない、視界〇米、いまにも引力を失って底なし沼か、まだ誰も経験したことのない死の世界へ落ちて行くのではないかと思った。突然長い尾を引いたような霧笛の中でエンジンが始動しはじめ、船首がぐるりと百八十度回転した。少年は洲本港へ引っかけずのだと直感した。少し落ちついた歩幅で一等の船室に入るなりそこに釘づけになり息をつめた。真紅なバラ色の服を着た少女がきれいな女の膝の上

で「あやとり」をしていた。

次の日は晴天で雲一つない、やがて神戸港に近づくと頃には申し合せたように船室からぞろぞろデッキに出てくる。左に川崎造船所のドックに入った外国船を眺めながら、ふと外国へ行ってみたいと少年は思った。速度をおとしながら船は中突堤に入る。海はキラキラと輝いて六甲山麓に点在する白い洋風の建物が緑の中で美しく息づいて見える。少年のすぐ目の前できのう「あやとり」をしていたおさげの可愛い少女がきれいな女に抱かれて棧橋に降りた。

神戸、私の好きな街

井上 豊子

△スワイヤー客船課▽

午後七時、山の手のあるレストラン。お隣りのテーブルは中年のすてきなカップル時々息子さんの大学生活の事やらお嬢さんの受験の話が聞えてきます。後ろのテーブルはやたらにぎやかな八人ほどのグループ。ドイツ語、フランス語、日本語に中国語が混り合って楽しそう。目があうと笑みかけてくれる。私たちも

グラスを持ってお返しに笑んで乾杯。この情景どこかで味わったことがある――。

そう船の上のレストラン。食事って会話というソースをかけ笑みというスパイスで味付けして食べると改めて知ったあのレストランです。

テレビも新聞もない毎日、あるのは太陽、潮風、波の音、船上の時計はとてつもなくゆっくり動いているみたい。老夫婦がいたわり合うように手をとり合いデッキを散歩している。波の上下に過去と現在が映画のように目眩めき、海という大きなスクリーンにそれぞれが主人公になって自由に演じている。センチメンタルでコケテッシュでロマンチックでドラマチックな回想。何時間も手をとり合いその回想録を二人で見つめている光景がとてもうらやましい。船を降りるとあわただしい生活の中に吸い込まれてしまう。腕時計は船の時間の三倍の早さで時を刻み続けている。目がまわってしまわないのが不思議。せめてゆっくり食事がしたい。会話というソース

△太平洋上「クインエリザベス2世号」にて
▲筆者右から二人目▽



がかかったおいしいメニューが恋しくなると神戸で約束するのが私の習慣。大阪は男のビジネスマンの社交の街なら神戸は家族単位、夫婦単位の社交の街というイメージ。

大人の女性が、男性が、優雅に歩き、おしゃべりをし、食事を楽しめる街。神戸のおしゃれは船のイメージと言われるけれど、生活パターンもやはり船から育ってきたのかしら。私はそんな神戸が大好きです。

・コーラルプリンセス入港予定
△7月15日▽

PM 4:00 神戸港着。横浜行き。16日午前中出航（福井の女子短大生の修学旅行）
20日朝神戸港に。

△7月21日▽

PM 11:00 韓国にむけて出航の予定。24日神戸港に。

「風とコスモス」

出版を終えて

権炳佑

△在日大韓民國婦人會兵庫県地方本部会長▽

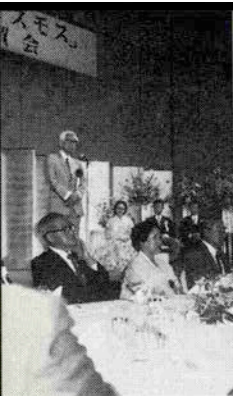
無我夢中で生きてきた六十年…… やつと自分の身辺を見まわす、心の余裕が出来たような気がいたします。

その気持のゆとりから、果たして私のこれまでの人生とは、一体何だったろう、と思う反省と懐旧の思いが混有する心境が芽生え、赤裸々な「自分の生き様」を飛躍台に人生八十年代の挑戦を期した意義を複合的に考えた末、自分の半生記を書き綴りたい気持ちを整理しはじめたのが、ちょうど五年ほど前にもなりましょうか。

その間、事業の拡大と身病との闘いに明け暮れながら、



あいさつする権さん(右) 坂井知事のあいさつ(左)



余暇にまかせて収集した薄れた記憶と記録資料を辿る作業の難しさ、書いては消し、消してはまた書くといった日々を数え、これまでの私の人生を支え、励まして下さった多くの善意に満ちた方たちとの、文中での再会を唯一の楽しみに、今日、ようやく脱稿することが出来ました。

毎朝、亡夫のにおいがこもる洋服ダンスをあけるたびに「あなた、今日も私を守って下さいね」と心に念じながらそれこそ亡夫とともに生きてきた激動の日々。「正直」「誠実」「努力」を座右の銘に一生懸命に生きてまいりました。家庭における味噌汁の味にもそれぞれに幅があります。

その幅のように人生それぞれ生き方の味も違うものです。その味は人につくってもらうものではなく十人十色、自身で味付けする個性的なものでなければいけないと思うのです。隣の芝生は青く見えるときがあるかも知れないけどやはり自分の家の芝生の青さをも認める、自分の持つ家庭の味をみつけることが大事

なことのように思います。

人間社会が形成される過程に人との不思議な出会いがあるろうかと思えます。お金というのは、ある程度本人の努力によって貯蓄は出来るかも知れません。しかし心の中に貯めることは至難の業かと思えます。私にとりましては、これまで、人との出会いを大事にしてみましたし、それがほんとうに心の大きな財産だと思っております。よく恋人の代わりは若い時代から出来るけれども友だちの代わりは出来にくいと申します。

私たちが生活を営為し仕事をしていくプロセスで友だちが占める割合は大きなものがあります。私はそのような友人たちをこれからも大事にして心の寄り所にしていきたいと心に念じております。

木洩れ日が若葉の隙間から季節の微風を運んでくれます。これからも精一杯、いつまでもこの微風のように初々しく明るい気持で、限りある人生を生きてまいりたいと思います。

・「風とコスモス」権炳佑著
育英出版社 三二八〇〇



■エッセイ

女たちの世紀

服部 正 (神戸市婦人問題推進懇話会長)

カット／杉浦祐二

女時めどきという言葉をご存知ですか？

「時の間にも男時おとどき女時めどきとて有るべし」と「風姿花伝」にあり、この二つは対たいになっていきます。少年時代、初めてこの言葉に出会いまして、男時は雄壮なふるい立つような気分の時、女時はしっかりと優しく暖かい気分の時と勝手にきめこんでしまいました。ところが後に辞書をひいて見てビックリしました。

「一切の勝負に定めて一方色めきて善き時分になる事あり。これを○時どきと心得べし」という時のこの○は女めか、男おとかという何と正解は男時おとどき。つまり、ついていない時が女時、運のむいている方が男時で、これではまさしく女性蔑視そのものの用語といわねばなりません。

しかし、よく考えて見ますと、古代、中世はいうに及ばず、近世も近代も女たちにとっては、まさに悪い意味での女時の連続だったではありませんか。女は苦しく、辛く、むごく、そして悲しかったです。私の小学生時代に出版された「女工哀史」

ひとつとって見ても、自分の同時代のこととは思えぬような凄惨な記録で溢れています。

今はどうでしょうか。社会福祉の世界ではよく「今、ここで」といいます。「今、ここで、その人のために」と。女性たちは明るく、朗かで、歌い、踊っているではないか。とくに神戸の街では。女たちは美しい。輝やいている。今や、哀れなのは男の方だ、という人さえあります。

ところで一九八五年、去年という年は、後二、三世紀もしたら記憶されることが残ると思われませんか？日航機墜落の惨事も、おそらく半世紀たてば忘れられるでしょう。

しかし、ナイロビ会議の年として、ひよっとすると未来の受験生は、一九八五年を一生懸命覚え込むことになるかも知れません。「社会参加と平等」をスローガンとする「国連婦人の十年」の最終年、そして21世紀に向う女性の「平等・発展・平和」の「十五年戦略」の出発の年として――。歴史とはそういうものです。産業革命が始まった

時、全世界の幾人がその深い意味に気づいたでしょうか。表面的にはダブルの服地の注文にこたえるため、織機にバネをつけて杼を飛ばすくふうをしたというだけのことではしかなかったのですから……。やがて、これが現在の文明社会を導き出すであろうと誰が考えたでしょうか。

その産業革命に匹敵するのがナイロビ会議だといわれるのです。男女の役割分担の終結、性差別の撤廃、そして新しい性平等の実現を旨とする「十五年戦略」は、今月で第一年を経過します。ケニアといえばサファリでしか知られていなかったこの国へ、一年前の今月、日本からはアメリカにつぐ多数の女性が出かけました。NGOフォーラムと呼ばれる民間人の自主的なシンポジウムは一六〇か国の婦人の百花争鳴でした。とりわけ注目を浴びたのは名古屋市のパートタイマーの主婦グループでした。いわば女性ゲリラです。

——ここはアフリカ、それなのになぜこの会議の公用語は英独仏と、かつての宗主国、支配者の言語なの？どおして母国語で訴えないの？私たちは日本語でお話します。日本のパートタイム労働の実態を訴え始めた彼女たちの仲間は、英仏の同時通訳もやってのけます。名古屋の主婦たちは、かくて各国の女性をひきつけました。

愛知県下には「東海あごら」と名乗る女性集団が活躍しています。(アゴラとは古代都市国家アテネの核ともいうべき広場のこと。)無名の主婦が結集し、文化的ゲリラ化(？)したのは、夫の転勤で名古屋へ転居し、古いしきたりや、封建的気風に抵抗し始めたのがきっかけだそうです。

神戸に転勤して来た人は停年後もここに住み続

けたいと願うとは、よくいわれる話ですが、その住み心地の良さ、優れたファッション、洗練された風俗、文化ゲリラ発生の余地はなさそうですね。しかし、女性優位のようにも、たとえば神戸市は女性教育委員のいない政令都市として有名(？)ですし、この四月、灘区役所にたった一人の女性課長が発令されただけで地方版のトップニュースになりました。大阪市では既に何十人も一般事務職の女性課長がいますし、部長もいます。来年は局長も出る予定だそうです。(大阪市長に聞いた話ですが。)

私は、女も男も人間として自由になるための主張としてのニュー・フェミニズムの時代を待望していますが、そのためにも神戸に文化的な女性ゲリラ出でよ、と呼びかけたのです。

「女たちの世紀——近代日本のヒロイン群像」(朝日カルチャーブックス・大阪書籍)という私の近著に寄せられた他府県の読者からのお便りには、さすが神戸ならではの発想などと、くすぐったい讃辞が多いのですが、本当は逆なのです。この本の第五章「明日へ翔ぶ女性たち」などは、東海あごらの美女たちの全面的協力からなるものです。

我が愛する神戸の女性の方々に、カゲキな刺激をと覚悟してこの本を書きました。袋叩きになれば本望です。それはゲリラ発生意味しますから、女たちの男時おとどが来たのですから、

■女たちの世紀(大阪書籍刊 単行本、200)



▲筆者紹介

一九一九年、東京に生まれる。関西学院大学文学部卒業、医学博士。大阪社会事業短期大学長、兼大阪府立社会福祉事業研修所長、大阪府立大学教授などを経て、現在、松蔭女子学院大学教授。神戸芸術文化会議議長。「女性心理学」等著書多数。

●こうべ味な旅 ⑳

好きな飲む店

食べる店

藤本義一（サントリー宣伝部制作室）
カット／石阪春生

親友にして詩人の各務豊和くんが、かつて日東館書林に勤めていた頃『ナイト・イン・コウベ』を企画編集していて、バーの紹介文を頼まれたことがある。神戸新聞が同様のものを刊行するようになった以前のことに、15年もまえだった。「私の好きな8軒の酒場」はこうして活子になった。3年まえ新聞で、神戸のクラシックバーを私家刊でとりあげた小冊子『酒場の絵本』の刊行を知り、版元へ手紙を書いて送ってもらったら、当時、私の書いた店の4〜5軒が入っている「赤ひょうたん」の奥にあった「アドニス・サルン」や「キングス・アームス」の少し北にあった「テキサス・タバーン」のように、姿を消した店もあるが、ほかにもクラシック・バーがあるのを知って、小躍りした。帰神すると京大の学生だった次男とそれらの店で泊り木に坐った。コニヤックをストレートで吸いながら、親子で、私が戦後初めて入った酒場の話をしたりした。あれは現在コスモポリタン・モロゾフの店になっている北隣り、確か煉瓦づくりだったので空襲にも外壁だけが焼け残った

のではないかと思われるのだが、その建物の一部を区切って、間口は狭くカウンターだけの、スタイル（足の高い丸椅子）もないロンドン・パブ・スタイルで、それでも奥へ入るには、立ち飲みしている人と肩のふれ合う細長い酒場だった。そういえば、パウリスタの向かいに入った「ギルビー」も、昨年店を閉じた。

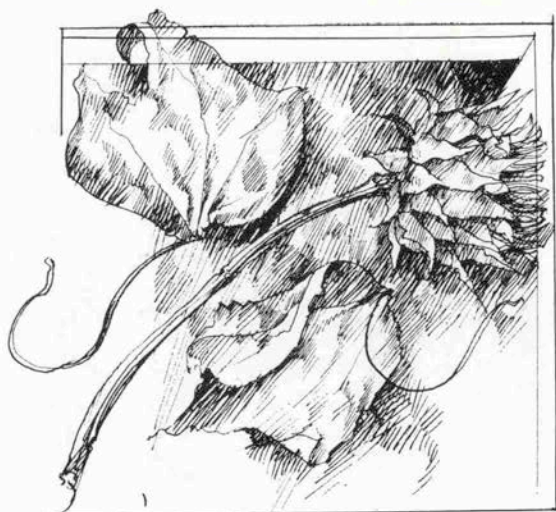
食べる店を思い出すと、亡くなった母は寿司が好きだったので、明石の「菊水鮮店」へ足を伸ばした。結婚してからも、明石ゆきはつづいた。のちにもう少し近くでとなって、垂水の「増田屋」が加わった。便利なところでは「青辰」。ここはいつも、昼まえに神戸にいると立ち寄る。トアロードから東へ三宮本通りを10軒目くらいの「千代寿司」も、この間まえを通ったら開店を待っている4、5人がいて、変こつな主人を懐しく思った。

ラジオ関西の朝のスタジオでマイクに向かう前夜は、制作の人たちとハシゴをするが「金宝酒家」はお値打ちだった。昔からの仲間といくのは「愛園」。ひとりですら「神戸元町別館牡丹園」。豚の足かチマキが食べたいときは「梅春園」。横浜の中華街へはよくいくが、神戸のほうがくつろげる。

レストランは予約しなきゃならないので、予定のたちにくいことから機会が少ない。ついこの間はちょうど昼にゆっくり時間がとれそうで、南京街の「ビストロ・コム・シノワ」へいった。赤ワインを1本とって昼前から飲みながら、2時間かけてゆっくりと料理をたのしんだ。店のマダムは顔みしり、ときおり話相手になってはくれるが、やはりひとりの食事はわびしい。「いいワインがあつて黙々とじゃねえ」といったら、隣りの席で

母娘の母親のほうがにっこりうなずいてくれた。あの人とオシャベリしながらだったらなあ。そういえば、アチラで二人づれのご婦人もこちらを意識してたような気がしたけれど。(エエカッコ、イウナ)

この間ポートピア・ホテルの「アラン・シャペル」から、アラン氏がリヨン近郊からやってきての料理をどうぞと案内がきて、東京では食べられないのだから飛んでゆきたかったが、都合がつかず、くやしかった。値段も適正だった。神戸の人が羨しいナ。以前ここでワインの話をしたとき、六甲の医師、田中さんご夫妻があと食事に招いてくださった。最高の料理をいただきながら、こうした出合いをありがたいと感謝。このレストランのシェフソムリエ木村克己さんは、昨年度の国内



H. I. I. I. S. A. K.

コンクールで最優秀ソムリエを獲得。パリでの国際コンクールに日本代表として出場四位に入賞。私は日本ソムリエ協会の機関紙を編集している。ワインを通じての友人だが、何よりも嬉しい。「ジャン・ムーラン」は、人名をとったこの店の名がまず好きだが、そのわけは言えない。小田実さんと熱っぽく話したことがある。小田さんはあまり味のわかる人ではないが、私の横浜の家でのワインパーティにも二、三度お招きした。この店と「ピストロ・ドゥ・リヨン」は、とっておきの店として。しかし気楽にフラーリといつでもとなれば「ドンナロイヤ」か「伊藤グリル」それに「ロック・キャンビン」あたり。そういえばこの間「ハナワグリル」を探してそこになく、そのあたりの人に聞いたらよそへ移ったとかで食べそびれた無念さがまだ残っている。本店へはまだだが、東京の赤坂で満喫しているのが「海皇」。一番お安いのも、一番お高いのも食べてみたが、どちらも納得した。ワイン仲間の食通も、ここはおすすめだという。フランスへゆくとパリであれ田舎であれ、星の店を毎日のように食べ歩くが、日本ではそうはいかない。山本益博さんと共著の見田盛夫さんから贈られた「グルマン1985」ののっているレストランを、安い店から順番に、それも昼に限って食べ歩いている。来年、定年を迎えてもしふるさとへ帰ったとしたら、レストランの数がそう多くはないことが、私の唯一の嘆きとなりそうだ。



△筆者紹介

昭和2年、神戸生まれ。竹中郁、井上靖氏らのもとで雑誌編集を経て、神戸市の社会教育課へ。昭和34年サントリー宣伝部へ入社。同40年東京へ転勤。「洋酒伝来」等著書は10冊。日本ソムリエ協会顧問。日本ブルゴーニュワイン協会常任理事。在横浜。

一人だけ

エキセントリック

森下悦伸

〈ラジオ関西報道制作部〉



「オレサ、スクールに入ったんだ。でもちっともうまくならないの。何かいい方法ない？」セキハラ君が例の調子でタケシさんに聞いている。フジムラは先っきから刺し身に夢中になっている。「あっそれから、カレイ焼いて下さい。ウーンあじのタタキも」「ちょっとは遠慮しろよ」そう言おうと思っただけでボクもモーレツにハラがへっていたので「アジのたたき、もう一人前それにタコ。タコの刺し身作ってよ」どこと行ってとり得のないおじさんに注文した。ボク達のグループだけが騒がしかった。タケシさんは少し酔ってきたみたいで「昔ね、オレ本当に女の子に縁がなかったんだ。だから今ね、たのしくて。サインして下さい、なんて言われるともう真剣にしちゃうよネ」「ヘーそんな風には見えないけど。ズーと好きなオンナがいるみたいだ。」「人は見かけによらないからね」モリあがりかけた会話はセキハラ君の「この業界で誰がうまいの？」といったひとりでテニス話に戻ってしまった。「ヨシタカさんもうまいよ」ボクが言うとタケシさんは「そうなんだ。ヨシタカさんどんどん前に出てくるの。アグレッシヴなテニスするよ」「ボクね、トップスピロブってあるでしょう。あれバックハンドで打

つの夢なんだ。レンドルなんかよく使ってるあれ」ステイム・ボイラーを飲みながら話してくれたヨシタカさんの赤い顔を思い出した。「マサトシさんね、あの人宮城出身で高校時代バスケットボール部のキャプテンしてたの知ってた？それで県大会でいいとこまでいったんだって。それで慶応に入った時も本当はバスケットしたかったんだけれど、体育会のしんどさ知ってるから、結局E・S・Sに日和ったって。体育会に入ってた人って独特のフニキあるでしょう。死ぬまでヤルって感じで。テニスした時もフラフラなだけけどヨシもう一本なんて、病気だよ」「その感じよく分かるけどさ。結構いるんだ。そんな人」タケシさんはずっとワインを飲んでる「このワインはまづいよ」そういうながら又おかわりしている。「モリシタさん知ってると思うけど、なんとかオートプンって、暗いもんね、だいたいがクレー・コートでさ、それに地味なんだ。服装なんか高校生がよく着ているアシックスのウェア。不思議にそうなんだ。たまにフィラなんか着てる人いるけどさ、だいたい一回戦で負けちゃうしネ」そうなんだ、ボクも試合に出る時はメーカーも分からない白いウェアに決めている。きつとタケシさんもそ

うしてたんだろう。テニスに憑かれたオトコ達が出場する小さな大会。そんな小さな大会の魅力は決してツユリさんにもフジムラにも分らないだろうと思った。ウイスキーはしだいにボクの頭を満たし始めた。タケシさんはその後もワインを飲んでいるようだった。

『セキハラ、どうして今日はオンナいないの？』

きつと女子大生の三、四人呼んでるかナと思っただけだ』そうだ今日はこの業界にしてはめずらしく、オンナが一人もないんだ。どうしてだろうと思っていると『モリシタさんが真剣テニスだなんて言うもんだからオレ、遠慮しちゃって』セキハラ君があやまっている。『なんだ、オレそんな事言ったか？ ちがうよテニスする時はオンナはいらない。テニスが終わればオンナはいた方がいいよ。そういうつもりだったんだけど』そんなことを言っていると、突然うるしのドアがあいて美しいオンナがあらわれた。酔っているから美しいと思った。タケシさんの顔が一瞬、輝いたようだった。『オンナやっぱりいた方がいいデスヨネ。オレ悪いかなって思っただけど声かけておいたの』セキハラがうれしそうにタケシさんに言った。スポーツ・酒・オンナ・タイミングは完璧だった。『まるでジミー・コナーズのリターン・エースだな』そう思った。もうすっかり酔いがまわった頭の中に、いつものようにジミー・コナーズがあらわれた。コナーズになりたくて芦屋のコートで壁打ちをくり返していたボクとギェルモ・ピラスを軽々と打ちくだいたコナーズとが思い出の中でオーバーラップしていた。テニスは知らなかったけれど、熱い思いだけはボクの心にあふれていた。

コナーズが華麗にステップを踏んでいる。タケシさんは美しいオンナとしゃべっている。フジムラは焼きカレイを喰っている。ミズカミ君は美しいオンナとタケシさんを見ている。酒はますますまわってきた。『フジムラ、もう喰うな』 タケシさん又テニスしようヨ、セキハラ今日はありがとう』

昔、別れたオンナに逢いたいと思った。死んだオヤジに逢いたいと思った。『タケシさんオレ、ソロソロ帰る』みんなにサヨナラして外に出ると雨が降っていた。ネオンの光に降ってくる雨はきれいだった。この頃スポーツの事ばかり考えているみたいだ。『3キロ泳いだヨ』『最近毎日走ってるんだ』『こんど宮古のトライアスロンに出ることにしたヨ』みんなスポーツしてる。まるで命とひきかえにスポーツしてるみたいだ。『麻ヤクと一緒にだナ。ヒヨイと死んでしまふんじやないかな……。そうなんだスポーツに憑かれると、みんなヒヨイと死んでしまふんだ。本当に死んでしまふんだぞ。ボクもきつとそうなんだ、僕もきつと……』頭はすごい勢いで酔っていた。さっきの美しいオンナの顔が浮んだ。タケシさんとしゃべっている横顔はきれいだった。『美しいオンナだけがいつも幸せなかもしれない』そう思った。美しいオンナだけが誰にも邪魔されず幸せなかもしれない。タケシさんも、きつと分っているんだ。雨はますます激しくなつて、夜の大阪の街はにび色にくすんでいた。

* * *

* * *

* * *

タケシ(スクエア)のリーダー伊藤たけし。最近「スポーツ」というタイトルをリリーシした。セキハラ(CBS)ソニプロモーター)フジムラ(ラジオ局のイベント担当。男子中・高卒で女性に対してイビツ)ツユリ(ラジオ局ディレクター。クリスチャン。最近チの手術をした)ヨシタカ(南佳孝。ロマンチスト、モロローウキの作曲者)マサトシ(あの中村雅俊さん)ボク(モリシタヨシノブ38歳)スティーム・ポイラー↓バーボンウイスキーをビールで割った飲みもの。

美しきには理由わがけあります。

綿、麻、ウールなど素材をこえてサマースーツをイキに着こなすためにニシジマでこまめなりフレッシュを。



サマースーツはプレスがポイント

- サマースーツは素材そのものが冬物にくらべ薄いため、ベタンとなりがちです。
- 美しく着こなすポイントは立体感をもたせたプレス。
- 肩、胸、腕、背中、腰など、それぞれにまろやかなボリューム感を。
- 夏ものは、こまめなクリーニングとプレスが必要です。

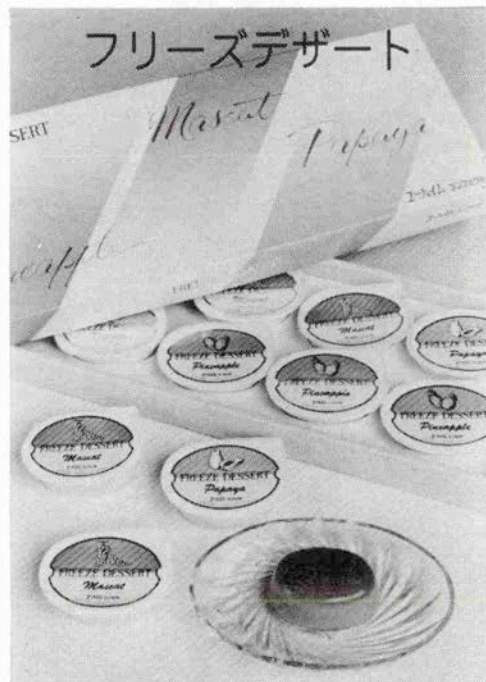


本社 / 神戸市灘区記田町1丁目2-16
078-851-2440

■大阪支社/06-853-1332 ■つかしん店/06-420-3754 ■ローブ・ニシジマ/078-332-2440
■山手店/078-221-2440 ■宝塚店/0797-72-0810 ■リフォーム・フルフル/078-221-9110

さわやかな
フルーツシャーベット!

新発売



パイナップル、マスカット、パイナップル
10ヶ入 ¥2,000 15ヶ入 ¥3,000
冷凍してお召し上がり下さい。

北 欧 の 銘 菓

2-ルイム・コンフェクト

本社・神戸市中央区鶴内町1-8-23 ☎221-1164

△その79▽

江戸と東京の水を想う

— 東京都水道記念館 —

米花 稔 △神戸大学名誉教授▽

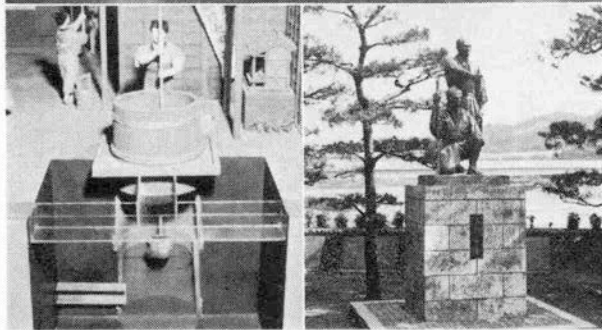
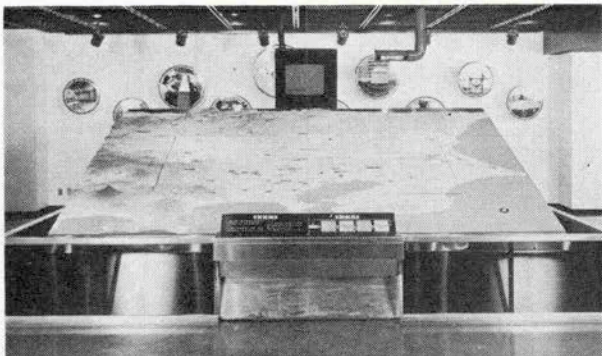
NHK朝のニュースのはじめに、いつも新宿の高層ビル群の画像をみせて気になるが、それはとにかく、その副都心のビルの一隅に「東京都水道記念館」のあるのを御存じであろうか。新緑の賑う午後、四〇階の新宿国際ビル一階のフロアの一部にあるここを訪ねたとき参観者は自分ひとりでありし

昭和四〇年まで新宿区など東京八区のための淀橋浄水場跡がこの副都心に生れかわったのは知られてるが、そのためのせめてもというのがこの水道記念館になったという。旅人には、市民のための第一室「今日の水道」より、その由来を示す第二室「水道のあゆみ」により興味がある。江戸という首都づくりに水不足のためのし

ばしばの上水道事業の展示など印象的でよい試みである。まず天正一八年（一五九〇）の神田上水が最初で、そのあと承応三年（一六五四）の玉川上水が主軸となつて、のちの本所、青山、三田、千川の四上水の試みのあったことを知る。

玉川上水については杉本苑子の小説「玉川兄弟」が面白いが、古く永井荷風の「すみだ川」岡本かの子の「河明り」近くは芝木好子の「隅田川」「築地川」などあり、最近朝日新聞の東京の地方版五〇回連載で川辺の暮しと江戸以来の由来をスケッチした「神田川」が新潮文庫で公刊（昭和六一年一月）されて眼にふれて興味深かった。辛口では東京への水供給のためのダム建設で沈んだ山梨県塩の小町内村をとりあげた石川達三「日蔭の村」も以前のことながら忘れられない。近頃は川への人びとの思いがとりわけ深いようである。

それにしては、その歴史のきびしき、現在の副都心づくりの規模、今日の首都という位置からみて、この記念館の規模、内容にも足りなさを覚え、より感動的な工夫があつてもよいのでなからうか。とはいえこんなことをそこはかとなく想起させてくれたのはやはりこの「東京都水道記念館」であつた。



関東地型模型(上) 玉川兄弟の像(下右) 江戸時代の上水のしくみを模型で紹介(下左)